

§ 3.1 化学工学会 SCE・Net に期待するもの

月島環境エンジニアリング株式会社

清水 典貞

SCE・Net10 周年おめでとうございます。

法人会員として共に歩んでこられたのもベテランエンジニアの会員の方々の積極的な活動があったからと思う。私は、本会の役割も全く理解しないまま、6 年前に当社の担当となった。パンフレットには以下の SCE・Net の目的があった。

「化学工業を主体とする分野でプロセス開発、技術開発、プラント建設、装置の運転・保全、生産管理、環境保全、研究開発などで活躍し、優れた技術と豊富な経験を持つベテラン技術者や科学者が集まり、化学工学会を基礎に、個人として、グループとして、知恵とアイデアを出し、種々の技術上の問題を解決し、新しい提案、システムを考え社会に貢献していくことを目的としています。同時に、会員の自己実現を図り、幸福を追求することを目指しています。」

実はこれを、何度読み直してもピンとこなかったのが正直なところであった。そこで、まず理解するために、本会の技術懇談会、総会等には極力参加するよう心掛けてきた。また、交流見学会では、日本環境安全事業(株) (JESCO) の東京 PCB 廃棄物処理施見学に参加、技術懇談会で 2 回当社製品発表をさせていただいた。これらが、結果的に非常に良かったと考える。

ただ、残念なことに法人会員の参加が非常に少ないことは気になった。法人会員の参加は、本会の活動発展には必須と考える。2004 年の法人会員 10 社、(平成 16 年総会資料) に対し現在の法人会員 8 社、(平成 22 年 HP) と法人会員の減少が気になる。本会の構成の中に法人会員をもっと積極的に参加させる工夫が必要なのかもしれない。

一方、当社は世間並みにベテラン技術者不足、技術伝承問題を抱えている。その中で本会の役割は大きく、困った時の SCE・Net と位置付けるようになっていた。最近、委託機関からある調査および報告書の作成依頼があったが、当社技術者は日々の業務に追われ、十分な検討が出来なかった。そこで、SCE・Net に相談した結果、Net を媒体としているためこちらの主旨が迅速に伝わり、スペシャリストの個人会員の方のサポートを得ることが出来き、非常に感謝している。これはシニアの新しい風が当社に吹き込み効率良く機能できた事例であった。

他に、本会の HP には各専門部会の貴重な資料も蓄積されていたり、有用な刊行物(「図解・新エネルギーのすべて」、「初めて学ぶ 熱・エネルギー」等)も出版されている。これらを強みとして更に一層の発展を期待したい。